

2013年度 正月FS山行

【時期】2014年1月1日～1月4日

【山名】美瑛岳

【形態】積雪期スキーツアー

【メンバー】L 秋元、SL 栗山、大原、森川、加藤

【行程】

1日 13時に札幌を出発

16時に国立大雪青年の家前より出発

なぜか道路がしっかり除雪してあったが、帰ってきたときに雪で車が埋まっていると悲惨なので念のため青年の家前に駐車。曇りの天候もあって、すでに薄暗い時間帯。山で泊まることをモットーに出発。

17時 涸沢川右岸林道を入るが、猛烈な膝ラッセル。200m くらい進むも、暗くなったので林の中でテントを張る。

2日 8時 出発

さらに降雪量が増した林道を交代しながらラッセル。この時期は雪が安定せず 30cm 以上が新雪という、足に堪えるラッセルだ。涸沢川まで明瞭な林道となっており、登山道に続く脇道を過ぎて、涸沢川左岸尾根を登っていく。この地域の尾根の多くは植林によって若い松が生えており、そこを縫うように歩かなくてはいけないので、非常に登り辛い。板の短い森川君は悪戦苦闘していた。C910 くらいからは斜度がほとんどない針葉樹の中をあるく。風もないためか、冷気が溜まっており冷たい空気が鼻を刺す。

14時 当初予定していた C960 地点に DC を張る。

今回はフライの代わりにタープを斜面に合わせて張ることで、雪洞の屋根代わりにする方法を実施してみた。この方法は、雪が少なくても半雪洞さえ作れば、テントを濡らすことなく快適な環境を維持できるよい方法であったが、今回、4人用エスペースを使用したために半雪洞までテントを埋められず、テントとタープが接触してしまう状況となり、改善の余地があった。

時間もあるので、たっぷりと時間を使ってテン場を構築。

3日 7時 起床

9時 出発

11時 C1031

森林限界地点であり、急にオープンバーンとなる。C1140 からはスネ程度のラッセルとなり歩きやすい。天候は曇ってはいるものの、風がほとんどなく、クラストしていない。シール登行のまま C1400 の岩が点在する場所まで標高を上げて、本日の滑走タイムとする。途中、猛烈な勢いで加藤氏が追い付いてきて合流した。

パウダースキー初体験の森川君はさぐりさぐりで滑るも、すぐに順応してしまい、運動能力の高さを感じる。何度か登りかえしてパウダー堪能。

4日 8時 出発

天候が良いため、7時出発を決めるも、ダラダラしてしまい結局8時出発となる。昨日と同じトレースを使い、一気に標高を上げる。連日風が全くなく、降雪のみ。C1400から上はやはり高所であり、アイゼンを使用したりしながらC1400地点まで。シールに不具合があった秋元を置いて、さらに標高を上げる。

11時 シールのままC1700まで上がったところでタイムアップとして下山

快晴の中であったが、気温上昇のためあつと言う間にガスの中となる。皆、ヨレヨレしながら予定であった涸沢右股にコンパスをきる。ここは今回の行程のなかで最もよい斜面であった。斜度はきついが、太ももまでのパウダースノーではある程度の斜度が無ければすべられない。C1200くらいから元の尾根へトラバースしてBCに向かう。

14時 BC撤収し下山

14時40分 林道合流

15時20分 大雪青年の家到着

今回、パウダースキーを堪能する目的でツアーを組んだ。正月は道内では実施できる地域が限られており、また、その年によって雪の量がまったく違う。十勝エリアに関しては滑走に適した斜面までのアプローチが非常に長いこと、一気に降雪するため雪が安定しないこと、バリエーションルートを取りづらいことが問題点ではあるかもしれない。





秋元 健太郎